



イモジエクトX

10月末に4・5歳児が伊藤農園で掘ってきたサツマイモで、今月は焼き芋を楽しみました。

例年、かぜグループ(3〜5歳児)が中心になって、そのお芋を洗って、焼いて、売り歩くという、いわゆる焼き芋屋を開店して全園児に振舞うというスタイルなのですが、今年はりヤカーでの引き売りではなく、露天販売を展開しておりました。

焼き芋の命は、なんといってもその焼き加減。実は今年、焼き方に大きな方針転換がなされました。

そもそも焼き芋なんてものは、庭先の落ち葉焚きの暇つぶしに、うまくいった、丸焦げになっちゃった!なんて談笑しながら、遊び半分のにんびり楽しむもの: : : だったはずなのですが、百人以上の胃袋を満たすため、一定の品質と制限時間内の量産が求められたとたん、その様相はだいぶ変わってきます。

まず、大量の落ち葉の調達。園庭だけでは間に合わず、この時期になると子ど

もたちは、落ち葉がいつばいに詰まった大型のビニール袋を抱え、お散歩先から帰って来る事になります。それを見かねた保護者が、自宅周辺で集めたものを届けてくれた事もありました。しかも5〜6袋になったそれを、雨露を避け、乾燥したまま保存しておく必要があります。

しかし短時間で大量の芋を焼くための熾火を作るためには、実はこの程度の量の落ち葉では足りません。なので、当日は、園庭の植栽を伐採した薪(まき)をたくさん燃やして、大量に作った熾火の上に、濡れ新聞を巻き、それをアルミホイルで包んだ芋を並べるのです。そしてその上に、子どもたちが落ち葉を、パラパラと撒く: : : そう、芋を焼いていたのは、実は薪の熾火なのです。それでもまだなかなか火が通らないので、事前に芋を小さく輪切りにしたり、挙句の果てに茹でておいたりして: : :

「焼き芋!いかがですあ!」と楽しそうに売り歩く子どもたちを横目に、うん、何か違う: : : 焦げ目の入ったスライス状の茹で芋をかじりながら、これは一体焼き芋なのだろうか: : : とつぶやき続ける

こと数年。

今年こそ、本物の焼き芋を！と意を決し、密かに動き出した職員プロジェクトチームが出した結論が、「炭火を起こして焼く」。つまりそれは…「落ち葉焚きからの脱却」という覚悟の選択でした。

その作戦は見事の中。炭火の強い火力、遠赤外線威力で、丸ごと20本程のお芋が、30分ほどでまんべんなく確実に焼き上がっていきます。団扇で仰ぐばかりで、手持ち無沙汰の子どもたちのために、落ち葉は「少しだけ、パラパラとね」と隠し味程度にお願いをして。

そして焼き上がりを割った時の香ばしい香り、深い色と艶、濃厚な甘さ…これぞ本物の焼き芋。この感動、きつと子どもたちにも伝わっているはず！と胸を張るプロジェクトメンバーたち。

石焼き芋に代表される「引き売り」は、戦後になってからだそうですが、江戸時代の頃から土鍋などで焼いたものが、店先で売られていたそう。どちらかというところジャガイモ派の私としては、どうしてサツマイモを焼くのか不思議だったのですが、「焼き芋」は俳句の季語になるく

らい、昔から冬の風物詩だったよう。

「これならどんな野菜もいけるし、網をかければサンマも焼ける！」と子どもそっちのけで、来年への期待を膨らませる火を囲んだメンバーたち…やつと本物の焼き芋に辿り着いたというのに…今度はどこへ向かおうというのか。

目に染みる煙を避けながら、焼けたかなあと、焚き火をかき分け小枝でツンツン…そんな情景も本当は捨てがたい。今の子どもの心には、どんな原風景が刻まれていくのでしょうか。

園長 折井誠司

「みんなの作品展」開催中！

文字通り「みんな」の作品をホール一

| カレンダー | |
|--------|------------|
| 8 (火) | 発育測定 (O12) |
| 9 (水) | 発育測定 (K) |
| 10 (木) | 乳児健診 |
| 15 (木) | 防災訓練 |
| 24 (木) | 誕生会 |

角・階段ホールに展示しています。子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々の作品を募り、作品を通じた交流の場として、共に創ること、表現することの楽しさを味わえたらと思います。

おおよそ11月中旬までの展示としておりますが、応募が増えるにしたがい期間も延びる柔軟な作品展です。保護者ご自身の作品、ご友人の作品、お子さんがご家庭で作った作品など、どなたのものでも構いません。世には、「コレクション展」というものもあります。珍しいもの、買ったもの、拾ったもの、買ったものでも、その人なりの特別な思いが込められているものなら、それも作品なのだと思います。色々な「モノ」を通して、みんなまで交流しませんか？まだ間に合います！お気軽にご出展下さい。

- 編集 誠美保育園
- 編集人 折井 誠司
- 発行人 折井 誠司
- 印刷所 誠美保育園
- 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2

電話 042-677-1551

ファックス 042-677-5643

E-mail seibi@nokken.jp

<http://nokken.jp/>